

【停電した窓からの伝言】

千葉県

東海大学付属浦安高等学校中等部

一年

永田

一花

今、ウクライナで戦争が起きている。多くの人が大変な思いをしている。テレビでその映像が流れているから、私はその情報を知り胸を痛めている。でも、そのニュースを知らなければ私は何も知らないまま過ごしているだろう。このことと、水の問題は似ていると思う。今回、この小論文を書くにあたり、多くの事を知り、胸を痛めている。

今、世界では水が自由に使えていない国がたくさんあり、唯一ある水源は、泥や細菌、動物のふん尿などが混じった茶色い水。この様な水を浄水処理しないまま飲むと、抵抗力の弱い子どもたちは下痢を起してしまう。この汚れた水が原因で、命を落とす乳幼児はなんと年間三十万人、毎日八百人以上にものぼるそうだ。

普段の生活の中で、一人が一日に使う水の量は、なんと二一四リットル、二リットルのペットボトル、一〇七本分にもなるそうだ。一人で一日に使っている水だけで、途上国の人や子どもたちが何人助かるのだろうか。たくさんさんの人の命が助かることになるだろう。

もし、私達の普段の生活の中で水が使えなくなってしまうたら、いったいどんな一日になるのか想像してみた。朝、起きて歯磨きが出来ない、顔が洗えない、学校に行く気力が起きない。朝ごはんを食べる事ができない。昼、学校での体育の授業後や部活後の水分が取れない。熱中症になるリスクが増える。手が洗えない。夜、家に帰っても手が洗えない、お風呂に入れない、ご飯が食べられない。こんな一日を何回も何回も繰り返すことは、私にはとても出来ない、そう感じた。

先日、私が住んでいる地域で停電が起きた。水道の蛇口をひねっても、水は出て来なかった。ニュースで途上国で水が使えていない問題が起きているという事は聞いていたけど、実際、自分の家で水が使えない状況が起きると、ものすごい恐怖感におちいった。途上国の人達が、どんな気持ちで毎日を過ごしているのかをより一層知ることができて、さらに

心配な気持ちが強まった。

地震の影響で停電が起こり、電気が止まってしまい、テレビもけいたいも見れなくなり、何もする事がなく、窓の外を見ると、停電が起きている地域と、起きていない地域がはっきりと分かった。この状況と途上国の水問題は、すごく似ている。途上国の水問題も、水が自由に使えていない国は誰が見てもはつきりと分かる。

ではなぜ、停電はもう終わって私達は普通の生活を送っているのに、途上国の人達は、何年経っても水が自由に使えない生活なのだろうか。私は、その答えはお金の問題などではなく、人間一人一人の心情にあると思う。人は、どこかで人を心配する気持ちを持っているから、どこかで人事に思う気持ちがある。その半分の気持ちがあるから、いつまで経っても、途上国の人達が不安定な生活を送っているのだと思う。

しかし、みんながもう半分の気持ちを一致団結させて本気になれば、途上国の水問題はすぐに良くなると思う。そして、今も途上国のために活動をしてくださっている団体に、募金などの協力をみんなですて、少しでも途上国のためになつたらいいなと思う。

私はまだ社会人ではなく、働く事ができないので募金を出来る事も少ないが、社会人になり、自分でお金をかせげるようになったら途上国のために力を尽くせるような大人になりたい。